

身近なIoT推進チーム第1回会合 事業内容説明資料

2016年6月28日
合同会社ゼロワン研究所

1. 事業概要

■事業名:

「スマートホームを想定した連携IoT機器のセキュリティ検証用テストベッドの構築」

■代表団体名: 合同会社ゼロワン研究所

■共同提案団体名:

・共同実施期間: 株式会社プラスナレッジ

株式会社マストトップ

株式会社ブロードバンドタワー

・審査及びアドバイザー: 一般社団法人

重要生活機器連携セキュリティ協議会 (CCDS) 会員企業

大学機関

■対象分野: イ.家庭(スマートフォーム)

■実施地域:

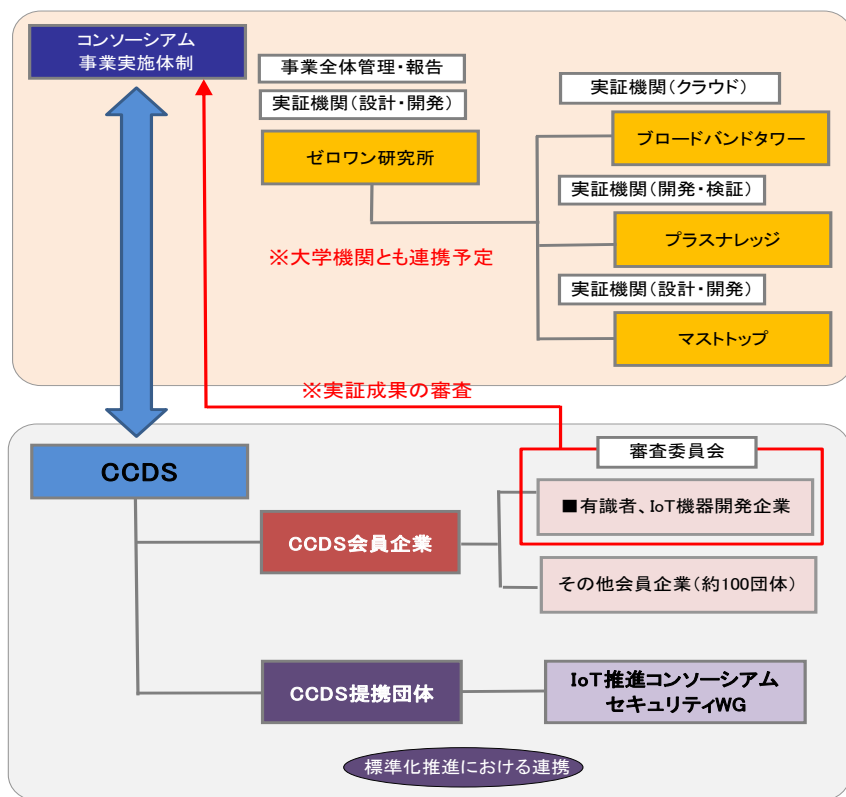
①研究開発: 東京都品川区

②セキュリティ検証事業の一部実証: 沖縄県那覇市/宜野湾市

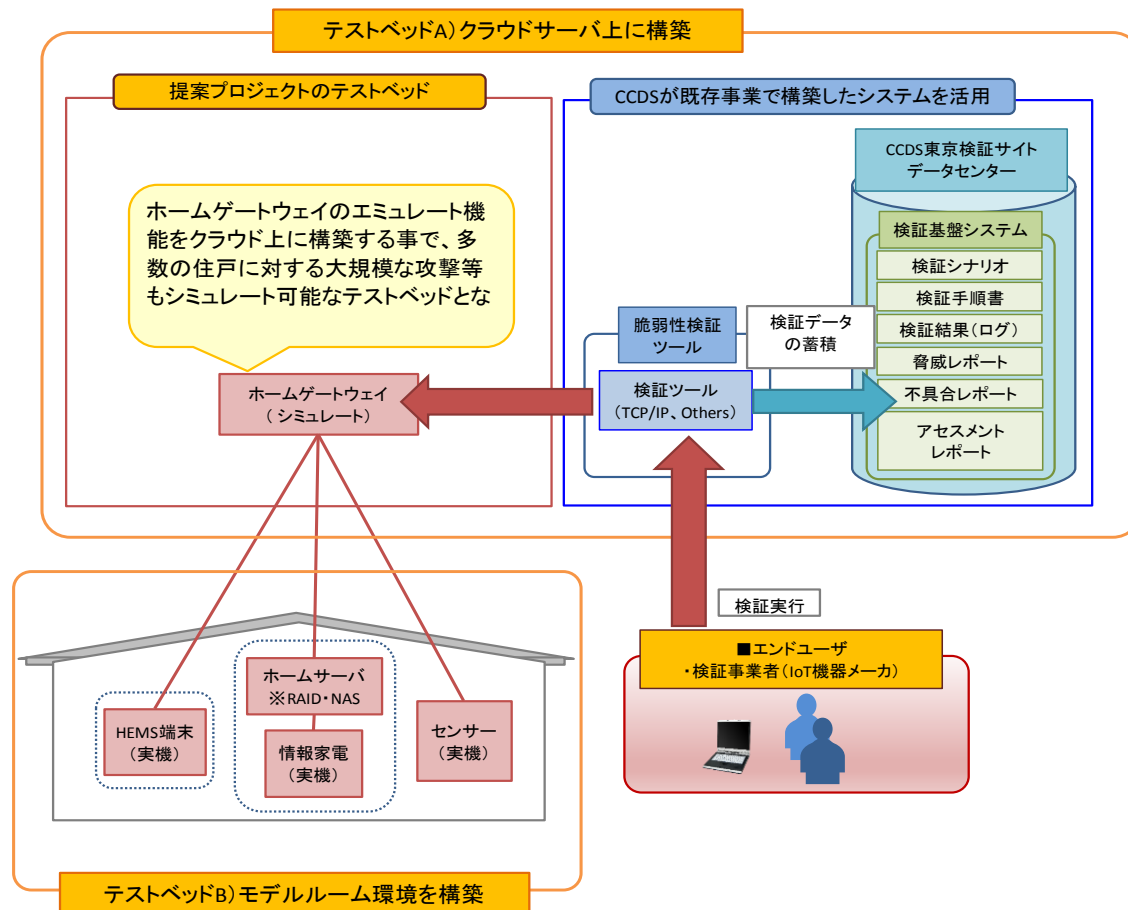
2. 本事業で構築するリファレンスモデル

当プロジェクトでは、一般社団法人 重要生活機器連携セキュリティ協議会 (CCDS) が保有している組込み機器向け検証基盤システムと連携したスマートホームのテストベッド環境を構築し、日常生活で使用するホームゲートウェイや情報家電 (IoT機器) におけるセキュリティ上の安全性を検証する検証事業の実証を行う。

■コンソーシアムの体制



■リファレンスモデルのイメージ



3. 具体的課題と本事業期間中に達成すべき目標

■解決すべき具体的課題

課題1) 連携する生活機器を想定したスマートホームのテストベッドが存在しない。

課題2) 設計、開発、評価・検証までを統合されたプロセスとして実施できるスキームが存在しない。

課題3) スマートホームの評価・検証において、明確な基準やガイドラインが定まっていない。

■リファレンスモデルの実証目標

目標1) スマートホーム(IoT機器間連携)のテストベッドを構築

＞CCDS側保有システムとの連携含む、プロトタイプ環境を構築。

目標2) サンプルIoT機器を対象としたセキュリティ検証サービスの実証

＞IoT機器に対する実サービスを想定したセキュリティ検証を実施

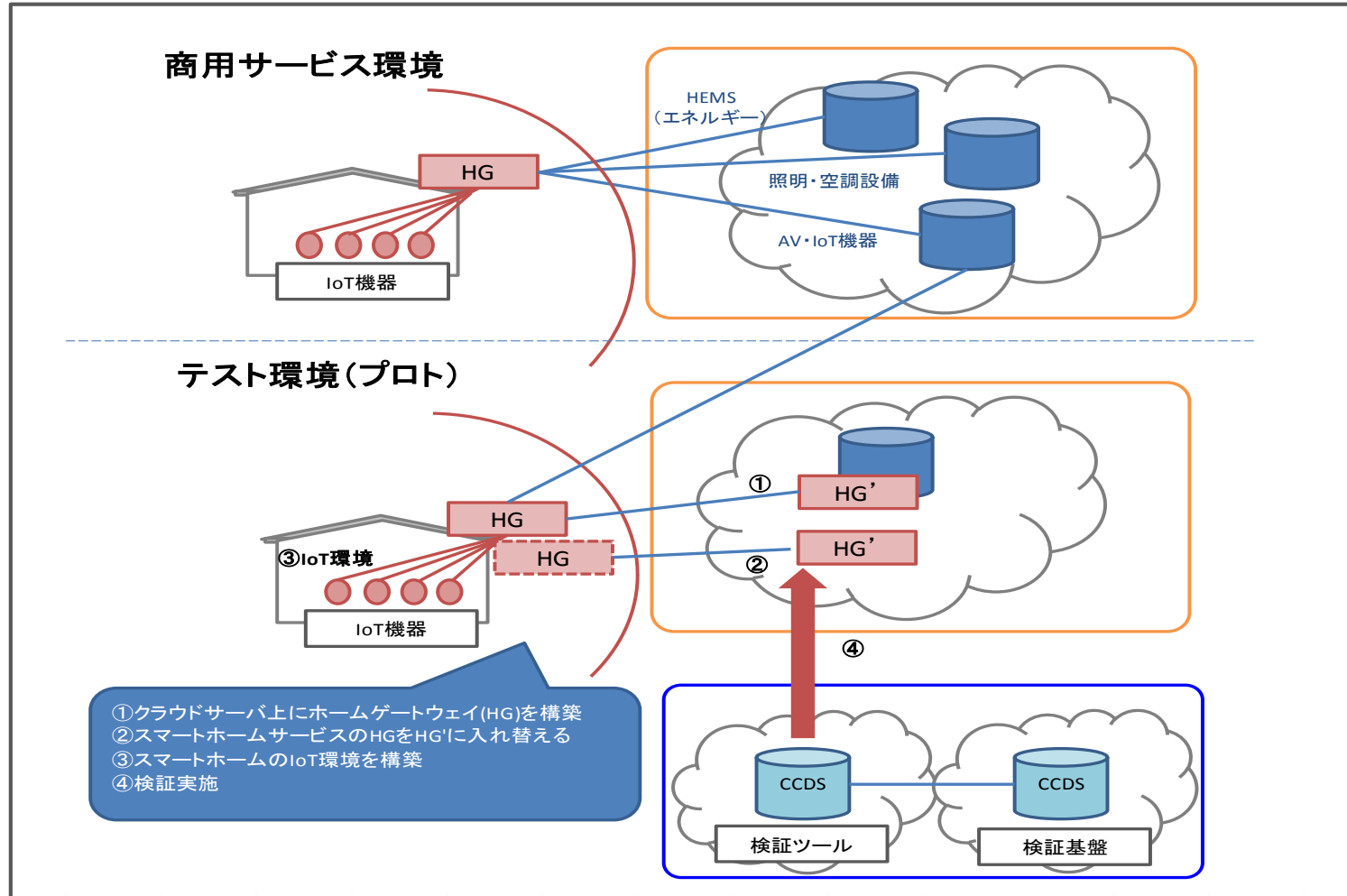
目標3) 第三者セキュリティ評価・検証の実行手順をガイドラインとして定義

＞提案事業で得られた知見をもとに検証手順をガイドラインとして整備

4. テストベッド環境のモデルイメージ

■テストベッド構築のゴール

- ①ホームゲートウェイ(下記HG)をシミュレーションできる環境をクラウドサーバ上に構築する。
- ②モデル化したホームゲートウェイに対して、CCDSが開発した検証ツールで実行できる環境を構築する。



6. 普及展開に向けた取組

■アジアへのセキュリティ検証事業の拡大

今回の研究開発を機会に、標準化推進団体であるIPAやIoT推進コンソーシアムセキュリティWG、CCDSを認証機関として連携することで、セキュリティ検査に関する認証の制度化を推進し、日本発の検証ナレッジを発信することで、アジア地域への検証事業の拡大が見込まれる。これまでセキュリティに関する技術は米国、イスラエル、北欧が強い主導権を握ってきたが、国内の標準規格が整備できれば、日本の技術に対して潜在的なニーズを持つ、アジア地域に対して、セキュリティの検証に関する新たな事業基盤を創生することにつながっていく。

7. その他の当該事業の特徴

■IoT機器開発メーカーの製品競争力向上:CCDS会員企業との密な連携



■沖縄県生活機器セキュリティ基盤形成促進事業:中核企業として参画中

計画期間：平成27年度～29年度（3年間）

内容：重要生活機器セキュリティ対策技術を基にした産業の集積に必要な研究開発基盤及び検証基盤の構築に対して支援を行う。

■IoT推進コンソーシアム IoTセキュリティWGに委員派遣

ゼロワン社（伊藤）が、IoTセキュリティWG ネットワークSWGメンバーとしてガイドライン策定に参画。